

給ふ小或孝父申はやくの。かくる怪を阿豆那比の罪をい  
 ちや傳ふ兼る由奏は。いさなるまや我。あつふを詔へを。  
 二社の祝をも合葬するや侍らむや奏を。小勅。偏く  
 蒼里を討究はせ給ふ。或人申せり。小竹祝。天野祝  
 や。二人あやま。善き友を。小竹祝病く死する時。天  
 野祝泣き哀み。彼人の世小存。程善き友を。かど  
 死をも。く冗を異ふせむや。やかく其屍の傍小  
 伏。死た望る。此二人を合葬。つや奏せり。故小其  
 墓を開。檢視せ給ふ。實事たり。更小棺を造らせ。  
 各處を異。埋せられ。天つ日。暉。夜

晝の別ち。きふ。豊耳。天野社記。紀国造を見え。  
 小仕奉ら。天道根命九代の孫。夜都賀志。命の子  
 たり。社記。豊耳命の。右の祝の。玄道。白た  
 る。記。此を應神天皇御代の。玄道。給ひ。  
 天野社。下條。あ。如く。大后の始。齋給ひ。  
 由。天野祝の。あ。い。あ。  
 彼御世。正き傳ふ。天野社を立。給る。い  
 紛れ。此御世の事。誤。傳たり。あ。む。は。アツ  
 十。三。或説。二人男色。穢行。自教。合葬。さ  
 へ。小竹天野神の。憎忌。給ひ。天地の正氣を。社内小  
 歳。給る。鬼の息吹。空氣。成。天日。を。な。む  
 や。或。昼暗。日。食の。ま。い。む。  
 が。或。神功朝。臨。懸象。光を失。推古。佐。在。  
 盛。夏雲。飛。陰氣の盛。其。應。此の。如。や。な。  
 の。陋。儒。洪範。春秋。を。本。取。播磨風土記。爾  
 安説。唱。初。た。の。流。弊。が。か。い。  
 保都比賣命の段。上。引。小云。新羅。事。ひ。終。還。上

坐るやかく其神を紀伊國の管川の藤代峯鎮奉  
給<sup>ル</sup>。筒川藤代の峯の加納諸平曰管川へ今筒香を記  
説ふ富貴香大和峯の塚の高峯今水呑峯石  
堂の峯や。或粒嶽の古名藤代也後以峯より  
今地より遷奉れりや。以御社の神名限ふ紀伊國伊都  
郡丹生郡比女神社名神大月次新嘗やありを。紀伊先師  
説ふ高野の天野明神たりや。貞觀元年正月紀伊奉授  
紀伊國從五位下勳八等丹生郡比賣神從四位下元慶七年  
十二月從四位上を奉る扶桑畧紀伊延喜六年二月七日紀  
伊國高野御子神小從五位下を奉る。壽永二年十月九日  
丹生高野神小一階を加奉る。本國の神名限ふ天神二  
社正一位高野御子神正一位勳八等丹生津比咩大神也  
南紀名勝志小天野神社一之宮丹生津姬神二之宮高野大  
明神三之宮蟻通大明神四之宮嚴島大明神見えま  
高野山小藏。正應六年太政官牒小如安四年四月五日同  
十二日當社四所明神の中三大神蟻通神の託宣ふ日本國  
の神々蒙古討ふ發向したる先例小任せ天野大明神一  
陣小向せ給ふ。議定む。吾は推築の爲

小初箭をかくる。松武具を。來廿一日己前小鑓矢  
一平弓絃一筋を得る。明神の進發ハ來る廿八日丑  
刺ちりや宣る。仍く關東より託宣小任せ。弓箭御劍幣  
帛等を贈獻られ。四月廿一日小社頭を。數子の鳥只  
一雙を。悉く去る。まね三大神前進の兆なり。廿八日  
神殿鳴動。地震の如く奇光赫奕たり。まね明神出御を  
る瑞相なり。七月廿九日暴風俄不起。異國の賊船一時小  
滅せし。合戦の間舟船の外紅火烟を交。波頭小飛  
ひ彩龍風を。海面小現る。以時の報實小和泉國近  
木御を進る。由記さ。後宇多天皇の御代の事小  
名高き元の忽必烈入寇せし時の事なり。以大神  
も韓國を征給ひ。神小坐る。かく靈威を現し給る。不  
測也。不測の事を。この皇后御政知者せ。元年上  
皇。安政五年。一千六百五十八年。少や成む。  
三月五日更小武内宿祢小詔。數万の軍兵を帥。忍熊  
王を征し。宿祢精兵を選。山背より菟道小至。  
この時々の武振熊命小會し給ふ。記ふ。河北小屯  
命のみ秋復小出。武内宿祢命を。河北小屯

みませバ。忍熊王。その營を出て戦むやせら。時王の先鋒た  
 る。熊之渡クマノワタリやいふ人。多野城首の祖や。或は其軍士や。或は  
 激ハゲまはむや。高く唱ウタひく。彼ちかたの。彼方之や。地名なり。神名帳  
 小宇治。彼方神社あり。拾遺愚草。彼方や。遠けき道。雪つ  
 り。待夜。ゆき。宇治の橋姫。夫木集。彼方や。都の辰巳。  
 誰住。炭竈。烟立らむ。あ。まつ。荒々。松原。まつ。小。松原。わ  
 た。ゆき。渡。柱。つ。ゆみ。小。槐。弓。ま。や。を。た。く。色。目。有。矢。  
 貴人。ま。ひ。や。ち。貴人。や。い。つ。お。け。も。奴。者。も。  
 者。賤。や。い。つ。あ。ら。ち。早。賤。い。さ。あ。れ。ま。れ。の。判。將。遇。我。者。東。平。  
 の。早。せ。給。も。軍。士。畏。た。ま。け。小。見。る。も。然。る。夏。下。敵。ハ。浅。ま。く。  
 我。河。を。渡。ハ。一。漸。も。え。せ。然。ハ。貴。人。ハ。貴。人。を。對。抗。早。賤。ハ  
 早。賤。を。對。手。小。征。矢。射。合。た。ま。ま。ま。ま。枕。詞。小。或  
 い。さ。逢。む。よ。あ。と。い。る。なり。た。ま。ま。ま。枕。詞。小。或  
 云。程。未。結。或

云玉城。う地のほそか。内之吾。けくぬちを。腹之。い。は。あ。は。
 張也。う地のほそか。兄之。けくぬちを。内者。い。は。あ。は。
 や。有。破。石。い。は。あ。は。れ。ま。ま。上。小。全。東。平。云。ま。ま。の。歌。意
 者哉。い。は。あ。は。れ。ま。ま。い。さ。ま。か。全。勇。猛。の。名。あ。武
 内宿祢。ま。ま。腹。内。小。破。石。ま。つ。め。た。の。貸。小。宿。禰。等。其
 形勢を見。今。力。戦。わ。る。官。軍。の。傷。ひ。多。か。ら。む。中。密。小。軍
 士。小。椎。結。させ。その。髻。小。弦。を。蔵。別。小。木。刀。を。儲。備。させ。
 大后の御語を王。軍。小。傳。る。い。て。朕。も。や。ま。皇。天。下。の。主
 た。む。む。の。心。を。い。て。王。天。つ。日。は。ぎ。知。め。せ。順。ひ。參。ら。れ
 ぬ。其。証。小。弦。を。斷。ち。兵。器。を。沈。む。や。誓。ひ。軍。士。各。刀。を。抜
 ぐ。弦。を。た。も。兵。器。を。皆。河。水。小。投。入。ま。た。れ。バ。王。は。く。む。此。方
 小。和。親。の。信。見。を。休。む。や。軍。衆。小。刀。を。解。く。河。小。投。入

弓絃を断せしむ。記ふに權く。大后の既く崩まゝゆれも。  
 更ふ戦ふなきまゝをたゞしや。いゝまゝゆれ  
 異なり。甚。まゝふ二將軍御方小令せ頂髪の中より。設絃  
 を採出更ふ弓を張り真刀執り河を度り。進戦ひく。時王  
 御覽し。倉見別まゝ五十狭茅宿祢を顧り。吾已ふ欺ま  
 今の備たる兵も無多。いかに戦ふるむ。やいひ。兵  
 を曳り漸々退ませり。二將軍精兵も追ひ行り逢坂  
 小あひ。これを攻破す。故を去るを踊り逢坂より。万葉  
 超相坂山望見近江海。近江道の相坂山。相坂を  
 歩出見。淡海の海。白木綿花。浪を立ちたる。古今集  
 小からある。別れ。往く。逢坂の人。だのめ。なる。名ふと  
 有る。逢坂関のま。日本紀。畧。文德天皇実録。見  
 高き地なり。王の兵。い。敗。凶走。つ。狭

々浪の粟林。及。大方打取。東平云。倉見別熊之  
 成。あ。その血流。粟林。王。あ。あ。事  
 を悪。の粟林の菓。今。御所。進。狭。孝徳  
 天皇紀。近江。狭。波合坂山。万葉。樂浪の大津宮。ま  
 た樂浪の志。我。多。詠。橘守部。説。浅井家。記。引。る。  
 近江風土記。淡海国。一名。細浪。国。や。栗林。ハ  
 崇福寺。四至。の文。東。栗。柵。等。を。限。る。や。ひ。催。馬。樂。小。安。を  
 つの原。の美。久。苗。頭。の。や。ある。所。あ。小。王。瀬。田。ま。い。逃。ま  
 せ。れ。が。路。窮。ま。往。く。な。き。所。な。り。志。る。む。五。十。狭。茅。を。喚  
 る。歌。を。い。ぎ。あ。き。率。吾。い。あ。ち。さ。く。ぬ。五。十。狭。茅。宿。祢。た。ま。き。け。る。内  
 掛。る。枕。詞。小。千。知。の。あ。そ。が。内。之。朝。く。あ。ち。め。頭。植。い。た。く  
 不。負。痛。手。者。あ。く。痛。手。を。小。ほ。や。ま。の。之。鶴。鶴。わ。ら。き

せむ。潜將為きを。記ふ。いつ。吾君。振熊。う。いた。ぐ。た。む。む。  
少信鳥の淡海の海ふ。う。づ。き。せ。れ。吾。や。あ。ま。る。火。異。也。  
 記傳ふ。一首の意。今。左。く。も。道。北。が。た。き。小。健。振。熊。小。尚。  
た。い。追。れ。く。そ。が。痛。手。を。負。ひ。く。苦。目。を。見。む。し。を。い。吾。ら。  
 頃。ふ。此。海。小。落。入。く。早。く。私。む。は。く。く。歌。ひ。く。共。小。水。底。  
 吾。君。も。諸。共。小。然。為。よ。や。宣。ふ。也。や。あ。ま。る。歌。ひ。く。共。小。水。底。  
 深く。沈。み。く。死。給。ひ。ぬ。時。小。武。内。宿。祢。軍。兵。小。令。せ。く。そ。の。屍。  
 を。潜。き。探。索。せ。れ。ず。も。見。え。け。ら。ま。久。れ。む。歌。を。く。け。く。く。ほ。ふ。  
カッ アナクラセ  
 みの。淡。海。之。せ。た。の。ま。ま。ア。ふ。瀬。田。之。わ。づ。く。や。ま。潜。く。め。  
海。を。と。渡。ル。鳥。  
 あり。み。え。ぬ。も。目。ふ。い。さ。や。ほ。ろ。も。憤。ろ。も。たり。王。の。  
不見者。吾。の。わ。や。あ。思。ふ。を。皆。人。の。ち。程。を。く。  
 菟。道。河。小。浮。ひ。つ。づ。た。る。時。ま。ま。歌。給。も。く。あ。ふ。み。の。ま。せ。た。  
 の。ま。ま。ア。ふ。わ。づ。く。や。ま。三。夕。上。た。ま。か。み。ま。き。く。田。上。過。而。  
小。同。し。た。ま。か。み。ま。き。く。田。上。過。而。

八雄畧天皇紀ふ。谷上濱天孫本紀ふ。谷上か。塚。中。の。人。あ。  
 里。万。葉。集。小。衣。牛。の。田。上。川。小。な。や。詠。く。宇。治。川。の。源。を。り。  
う。ぢ。ふ。や。く。る。く。於。宇。治。捕。つ。た。り。あ。の。裏。小。き。く。待。中。の。  
 る。く。あ。の。王。の。墓。を。撰。津。志。ふ。河。辺。郡。中。山。寺。村。中。山。寺。後。有。  
 荒。墳。曰。鍵。墳。相。傳。忍。熊。王。之。墓。や。り。記。傳。小。大。和。国。添。下。郡。  
 小。押。熊。村。小。あ。の。神。社。一。座。ハ。押。熊。神。一。座。ハ。麿。坂。神。や。申。於。  
や。り。や。中。見。ゆ。醜。難。抄。小。宇。治。離。宮。の。下。社。ハ。忍。熊。皇。子。小。  
 記。せ。ま。式。内。中。和。泉。国。大。鳥。郡。用。口。神。社。小。も。二。王。を。相。殿。  
小。祭。る。や。の。の。の。実。少。や。此。二。王。の。事。小。付。く。冬。十。月。二。日。  
 論。る。妖。説。や。の。の。あ。れ。や。一。向。小。取。小。足。ら。げ。給。ひ。き。女。帝。ハ。以。時。  
 群。臣。大。后。を。称。く。皇。御。祖。尊。や。が。申。奉。る。水。鏡。小。此。日。佐。小。即。  
よ。ま。が。始。り。た。ま。を。武。内。宿。祢。命。を。故。の。如。く。大。臣。や。成。給。ひ。  
や。の。の。ハ。誤。あり。  
 此。ハ。公。卿。補。物。部。多。遲。麻。連。を。大。連。や。給。ふ。此。ハ。旧。事。記。小。  
任。小。因。る。  
 の。大。歳。辛。巳。を。皇。御。祖。尊。攝。政。元。年。や。が。つ。ふ。の。あ。や。小。付。  
或。論。小。舎。人。



も申はるる。い。あれ畏上代の有。この萬。かまきや。る。或ハ無。了。あやを。思。を。何。を。讓。給。る。御子の御世。あ。大后の御世。あ。非。を。何。を。讓。給。る。む。い。此。撰。政。の御世。あ。つ。あ。を。ハ。後。世。よ。定。た。る。の。ご。や。い。あ。を。を。辨。へ。た。る。九。く。か。る。論。の。あ。い。を。や。云。云。や。な。は。る。を。論。を。た。る。が。如。く。実。小。御。生。ま。せ。り。う。を。胎。中。天。皇。の。天。下。ふ。く。天。皇。ふ。ハ。坐。た。る。神。代。よ。を。い。ま。し。め。幼。皇。の。例。も。坐。々。ゆ。と。い。の。時。權。小。御。子。命。や。い。稱。奉。ら。せ。給。ひ。多。し。や。覺。ゆ。も。ま。右。の。御。事。も。撰。政。元。年。や。い。あ。更。も。今。ハ。皇。典。の。さ。く。ふ。あ。け。た。る。ち。り。ま。し。磐。余。宮。や。あ。下。ふ。謂。推。標。官。や。あ。四。字。細。注。ハ。記。傳。小。履。仲。天。皇。の。官。跡。を。思。ひ。後。人。の。校。小。書。加。へ。た。る。ち。を。や。誤。れ。た。る。ふ。因。く。首。つ。磐。余。宮。ハ。編。年。記。小。大。和。国。十。市。郡。磐。余。池。辺。是。也。大。和。志。小。池。内。村。小。有。と。云。了。同。日。物。部。五。十。琴。宿。祢。を。大。連。と。爲。く。石。上。神。宮。を。齋。祭。し。給。ふ。此。ハ。天。孫。本。紀。小。抹。き。り。姓。氏。録。小。佐。爲。連。水。連。高。屋。連。等。を。以。連。の。後。や。い。伊。已。止。足。丘。ま。い。伊。已。燈。や。い。書。せ。給。り。○。五。年。己。春。二。月。七。日。新。羅。國。王。々。の。臣。汗。礼。斯。伐。毛。麻。利。叱。智。富。羅。母。智。や。云。

者を來朝せし。貢物を献了。先小身代小貢了。たき。微叱許智伐早を還し給。む。む。謀。く。微叱許智を。ま。ま。は。い。を。参。り。汗。礼。斯。伐。等。臣。小。申。は。様。ハ。臣。小。久。皇。國。小。留。了。侍。る。故。本。國。の。王。臣。の。妻。子。等。を。皆。收。く。奴。や。爲。々。の。少。の。暫。本。國。小。歸。了。虚。實。を。正。は。ま。し。や。奏。上。け。と。い。御。祖。命。聞。召。了。あ。を。れ。や。思。給。ひ。多。し。や。う。聽。給。ひ。葛。城。襲。津。彦。を。副。く。遣。せ。し。は。く。襲。津。彦。命。々。の。参。り。使。や。を。帥。く。對。馬。小。つ。き。く。鉦。海。水。門。小。宿。了。ま。せ。り。時。毛。麻。利。叱。智。等。ひ。く。か。小。微。叱。許。智。を。船。小。載。く。新。羅。國。へ。逃。歸。せ。微。叱。許。智。々。牀。小。ハ。病。者。小。似。せ。く。草。人。形。を。造。た。ま。く。微。

叱許智々、遽ニカ疾く死むや爲や、襲津彦命ツツヒコノミコト小白シロせを乃人ノヒトを  
 檢視ミ遣ツせり、其偽イタなる夏タカ慥タカ知られぬを、やがて新  
 羅使三人を捕ツるを、檻ツ中ツ納ルく火を以テく、これを焚ツ殺す。  
 遂ニ新羅國シラを押度ツる。踏タ翰ツ津ツ次ツ王ツ、草羅城サウラノキを拔クく。  
 天朝カヘリ反命コト白ク給ヒ々々。皇典ミコトノミコト小漏シたれや、新羅王シラノミコトが罪ツ  
服ヒひ成スきを乞ヒ申セせし、おや知  
らるる、東国通鑑トウコクツウカン小允コノリ恭ツ天皇ミコト七年シチネン、朴ハク堤テイ上ノヤツの、  
 焚ツ殺スされ、夏タカを録ルせり。ハ、皆ハこれヲを混マせり、傳ツや聞ユゆ、白石  
 遺文イヅノミコトみ、説ハあり。是時コノトキ、倭ヤマトの帥シ來リ、人等ヒトノラハ、今の  
 桑原サハヒ佐藤サトウ高宮タカミヤ忍海ニシエ四邑シイの漢人カンジンや、の先祖ソノソノノミコトをミき、襲津彦  
命ノミコトハ、統  
後紀コノキ小武内宿祢コノタケノスネ第六男ダイロクノオトコや見え、葛城カキ朝臣チカノミコト玉手タマテ臣等シノヒトノラを始メ、其  
子孫シラノミコトの氏ウヂ々々ツツツや多クきと、委シく姓氏録シノヒトノミコトノキを見え、  
 葛木カキの、其津ツ彦ヒコ真弓マユあり、木キも、たの米コメや君キミの、我ワ名ナの、  
 畧リヤク解ゲふ、襲津彦ツツヒコハ、勝カツる、健男ケンオあり、ハ、弓ユミたも、勝カツれり、

此人コノヒトの後ノチを、盾人タテヒト宿祢スネの、鐵テツ的テキを射ツ通スせり、其系ソノケイを、弓  
 力キリカを、強ツヨク弓ユミを引ヒけり、の、勇ユウ敢カン果ケツ断ツあり、ツ、み、益トク  
 健男ケンオあり、父君チチノキミも、伊賀イガ、国クニ阿拜アヒ郡ノ、源智ゲンチ、荒木アラキ神社ノミヤ、此命コノミコトも、坐マり  
 後ノチ、後ノチ、風フウ土ツチ記ノキを見え、筑ツク後ノチ高良タカラ社ノミヤを、借カ從ツ五イ位イ上ノ、那男ナノ美ミ  
 命ノミコトも、高良タカラ五イ垂シ命ノミコト第六子ダイロクノミコトや、當マカ國クニ神名帳シノヒトノミコトノキを見え、  
 此公コノキミを祀ヒり、○因ユひ、北山キタヤマ、秋アキ吉キチ志シ舞マヒの標シラシ注ツふ。  
 吏部シブ王ノミコト記ノキ云ク昔コノトキ安倍アノベ氏ノミヤ、先祖ソノソノノミコト勅ツケ令ノミコト伐キ新羅シラ有功ユウコウ大嘗會オホノコトノミツメ、日ヒ報ヒコト命ノミコト  
 因ユ、奏ソウ、此舞コノマヒ、故コト相傳アヒツツ、爲シ大嘗會オホノコトノミツメ、舞マヒやあり、と、宝物タカラモノ集ツふ、神功シノキミ皇后ノミコトノミヤ  
 の御代ミコトノミヤの事コトや、世ヨに、據ツあり、説ハみや、安倍アノベハ、大彥オホノヒコ命ノミコトの後ノチに、  
 後ノチも、名ナ高タカき將軍シラノミコトなり、多クり、古コ代ノハ、大嘗會オホノコトノミツメや、  
 御代ミコトノミヤ知チ者シヤ、元年ゲンネンの、事コトハ、限リミら、○十二年ニジウニネン己ツ春ノ二  
赫ツあ、バ、ソ、の、事コトや、定ツめ難ガタく、  
 月ツキ八ヤツ日ヒ、御祖命ミコトノミヤ武内宿禰タケノウチノスネ小詔コノミコトノミヤ、日嗣ヒツツギ御子命ミコトノミヤを、  
 御ミ襖ツせむ、淡海アヲミ、若狭ワカサキの國クニを、越ヒ前ノの角鹿ツノカ  
 小到コノミヤ、坐マる、假宮カミヤを造ツる、○の御ミ襖ツハ、  
 古史傳コノミヤノミヤ及ツ正ツ



ト考の説ふ神祇令ある道饗祭の義解小謂ト部等於京城  
四隅道上而祭之言欲令鬼魅自外来者不敢入京師故預迎  
於道而饗遇之也や見え臨時祭式小蕃客送塚神祭やあり  
右蕃客入朝迎畿内塚祭却送神其客徒等比至京城給被  
麻令除乃入や障神祭右客等入京前二日京城四隅為障  
神祭やあるを引く漢人の朝はる時ま還れり時又皇國  
の御使の諸蕃国小往く還れり時や被禊せり  
蕃国よりつきたまはる荒振神をも皇都小入せり  
祭をばあはる漢国より返させり因り御禊はる御  
経津毛神等小追やれり妖鬼等の諸蕃国小散在せり上  
故翁及六人部氏の委考ありや右史傳控魔慨論小  
就く見その時伊奢沙和氣大神の命夜夢小見えまはる吾  
名を御子の御名小易まはるを詔つれり言ほき恐  
命のまはる易奉らむや申せり神名帳考証小吉備津彦命  
のまはる御名を五十狹芥  
彦命や申せり五十狹芥や伊奢沙と語通ひ国造本紀小角  
鹿目造り吉備臣祖若武彦命孫やありや

別大神必吉備津日子命を論うは然るを  
記傳小あはる武内大臣の夢小宣るをを言壽も御  
答も皆太子小代り申給るをを大神吾名を易く御  
子の名を賜りて吾名小せはるを互小相易むと小  
ハあはる御子の命の大鞆和氣や申方を議卷給りて此  
時とるハ伊奢沙和氣大神や申せり大鞆和氣大神や  
申さむや論とるが如し余も初小應神天皇紀の本  
註小御名を互小易給りて心別とる能思ハ  
天皇御兄小品夜和氣王や申御坐せり品階別を申り  
本よりの御名をを統後紀小氣比大神の御子小伊佐  
奈彦神や申り坐せり大神ハ元小伊奢沙和氣大神や申  
るに著るを彼本注ハ後人の妄竄をを論とる思  
ひまはる其神の詔給る明日のあはる濱小幸はる  
名をの禮利奉らむや詔給ふ記傳小はる先小告  
給りて翌夜の意や説也  
つれやあはる吾友藤原嚴弋が同夜の夢の中は御同答も  
むやのりぞよき礼利や記傳小俗小のふ改名の祝儀  
の進物也故御子命早旦濱小幸行せり小鼻破はる入鹿  
やあり

魚ウヲとゞツふ一浦ウラふよヨれレとトあアふフ小御子命ミコノミコノミコト神カミふフ白シロ比ヒめメ給タマフとト  
く我ワふ御食ミケの魚イサ給タマフとトあアふフ白シロ比ヒめメ給タマフとト  
記傳云云 記傳云云 宣名給と云云 宣名給と云云  
一一言小御惠を深く辱み喜ひ謝し給ふ意自備く爾ゆ或  
説小御氣とい御氣つ因とソい意ふく天下をいふを  
ソいふのハソいふも故カたその御名を称る御食津大神  
見らぬ妄説を  
申は故今小氣比大神カキも申はカキ前マもマ式シキ小  
中ありく記傳小氣比ハ食ケをケ増封し前マ通ツりリありリ伴ト氏  
年九月筭飯神スふ二十戸を増封し前マ通ツりリありリ伴ト氏  
説小和名抄敷賀郡神戶郷あり是をカんクなりリ統ト紀  
小宝龜元年八月辛卯遣神祇負外史正七位上中臣葛野  
連飯麻呂奉幣帛於越前国氣比神カキや見えレ統ト後ト紀ト小カ兼カ和カ六  
年八月幣帛を撰津国住吉神カキとの氣比神カキ奉マりリ遣ト唐  
使の船の歸著とを祈給ひ同十二月九日奉授越前国正三  
位勳一カ等カ氣比大神カキ從ト二位カ見レえレ文カ德カ天皇カ實カ錄カ嘉カ祥カ三カ年  
小正二位清和天皇實錄負觀元年カ後カ一位カ奉マりリ陽カ成  
天皇實錄元慶二年二月廿七日の下カ是カよりカ先カ越カ前カ国カ言

氣比大神宮の祝部等申しけく神宮忽カ火災ありや  
見えレかカ驚走カく宮カ入カるカ何カ莫カも無カりカや申カはカや  
小陰陽寮カふカ占カりカ給カふカ神カ社カをカ穢カせカ故カふカりカ崇  
を現し給つれを疫癘風水の災を慎むカや申カはカ故カふカ國  
幸ふ勅カしカ神宮を洒掃カ佛カ經カをカ轉カ讀カせカむカや見カえカ寛カ平  
五年格カふ正一位勳一カ等カ氣比大神宮とありカゆカくカ天書カふカ本  
文ふ出カせカ八日甲子カ先帝の靈を越前カ祭カりカ氣比大  
神や歸カりカ風土記を始カ編年記皇代記一宮記異本  
水鏡和漢合運カ御社を專仲哀天皇カりカやカんカれカど  
此時御父天皇をカ併祀給カふカ有カるカ或説カハ保食  
神仲哀天皇應神天皇神功皇后武内宿祢若武彦命建功カ狹  
日命を祀とソい社説カハ保食神仲哀天皇カ日本武尊武  
内宿祢を東西殿カ神功皇后と八幡大神を総社カ豐玉姬  
命を平殿カ並祭カりカ七座カをカせカりカよカりカせカりカど  
十七日御子の命角鹿ツカとカ還上カりカ坐カるカ時御祖命待酒カをカ醸  
みく万葉小待酒を詠り歌二首ありカ俗カ  
ふいカ待用意の酒カソカいカ如カ大殿小豐樂カ給  
ひく御子命ミコノミコト献カりカ坐カせカるカ時トキの御祖ミオヤの大御歌オホミカのカみカいカ